



QRコンテンツや 県のワークシートを活用した授業提案

～4年生「栃木県の様子」を例に～

●栃木県 宇都宮市立泉が丘小学校 教諭 上野智之



1 はじめに

令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』（以下、地図帳）では、教師や児童が学習に活用できるデジタルコンテンツが豊富に用意されました。そこで本稿では、4年生に焦点を当て、最初の学習となる「県の様子」において、児童が地図帳やデジタルコンテンツを有効に活用できる場面を設定した授業作りを考えていきたいと思います。



2 単元デザイン

「栃木県の様子」の学習内容を整理すると、最終的に児童がたどり着くゴールは、【栃木県の様子や地理的環境の特色を捉えて、表現すること】となっています。栃木県の位置や地形、主な産業、交通網、都市などを調べて県の概要を理解し、それらの知識を基に県の様子や特色を表現することが学習のねらいとなります。



図1 単元デザインの図 筆者作成

簡単に言い換えると、県全体の地理的環境の特色や県の様子を大まかに捉えて「栃木県は〇〇なところだよ」と児童が文章や図説などで表現し、説明できるようになることです。そのために必要となるのが、まずは県の主な地形や産業、交通網や都市などを調べて、県の地理的環境を理解することです。そしてそこで得た知識を比較したり関連させたりする活動を通すことで、地理的環境に基づいた県の特色に気付くことができるのではないかと考えます（図1）。



3 知りたい！調べたい！を生み出す導入

それでは、児童と一緒に課題作りをしていきましょう。単元の導入で大切にしたいことは、児童の「もっと知りたい！調べたい！」という課題に対する関心と追究意欲を高めることです。そこでポイントにしたいのが【自分が知らないことに気付く】ことと【調べる目的をもつ】ことです。授業の主な流れを以下のように組んでみました。

- ① 宇都宮市のクイズ
- ② 栃木県のクイズ
- ③ 知っていることを白地図にかき込む
- ④ 友達と交流
- ⑤ 気付いたことを共有し、学習課題を作る
- ⑥ 課題解決の見通しを考える

まずは市のクイズから入りましょう。「宇都宮市には3つの大きな川が流れています。それは何川ですか？」といった一問一答形式のクイズです。クイズは難易度を徐々に上げていくことで盛り上がります。後半には「宇都宮市の地形は北に（？）が多く、南は（？）が多い」といったように、今

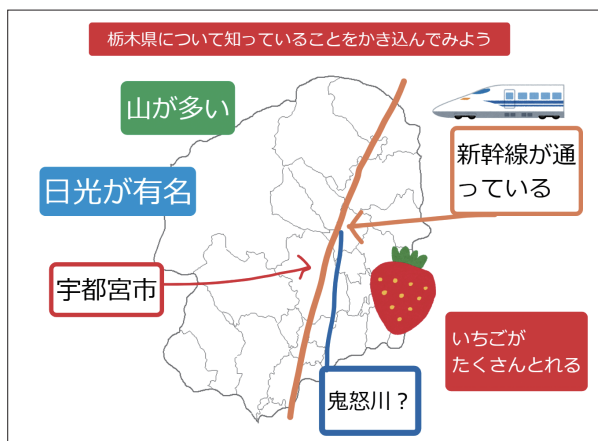


図2 栃木県の白地図 単元導入時

回の学習にもつながるクイズを出していきます。児童はクイズに答えることを通して、3年生のときに学習した市の様子や地理的環境の特色を思い出していきます。次に同じ流れで県のクイズを出してみましょう。知っている子と知らない子で反応が大きく分かります。ここで生まれる最初のズレが、追究意欲につながる大切な原石となります。「栃木県について知っていることを地図にかき込もう!」と投げかけ、白地図*にかき込んでいきます。かき込む前に「宇都宮市の学習のときは、どんなことを調べた?」と問いかけ、市の位置、地形、産業、交通網、有名なものなどの観点を確認・整理しておく、児童がその観点到に沿ってかき始めます。今回は学習支援ツール「スクールタクト」を活用して、白地図ワークを用意しました(図2)。

できた地図を友達と交流し、共有します。すると、「自分が知らなかったこと」や「本当に正しいのか怪しいところ」などに数多く気付くことができます。ここで出た「知らない」「分からない」を基に、「栃木県のことをもっと詳しく調べて、自分だけの栃木県地図を作ろう」と学習課題につなげていくとよいでしょう。このとき、「作った地図を〇〇さんに教えてあげるのはどう?」と調べる目的をもたせるとさらによいでしょう。家族、県外から来た先生や転入生、下学年生、ALT、県の観光課など、学校や児童の実態に合ったものを選択できると児童の追究意欲が高まります。



4 QRコンテンツとワークシートを活用した学習展開

地図帳p.63にあるQRコード(QR1)を読み

取ると「47都道府県地図」か

ら「栃木県」の地図を開くことができます。「地形」「土地利用」など8項目に分けた地図が用意されており、観点ごとに学習する際に非常に役立ちます。合わせて、帝国書院のウェブサイトに入ると、この8項目の観点到に合わせて作成されたワークシートをダウンロードすることができます(QR2)。ワークシートにはそれぞれ作業的な活動と地図を見て分かることを記述する設問が用意されています。その設問をこなしていくだけで単元で必要な地理的環境の概要を押さえることができます。

児童が地理的環境を理解していく上で【作業的な活動】と【比較・関連すること】が、大切なポイントになります。地図を見ながら色を塗ったり、線を引いたりするなどの作業的な活動の中に、「地図をよく見る」「情報を取捨選択して判断する」という行為と思考が児童の中で働いているからです。そして、複数の観点を比較して考える時間を設けることで、観点同士が有機的に結びついて新たな気付きが生まれ、児童の学びが深まりを見せていきます。次ページでワークシートの活用の仕方を2つ紹介します(図3・4)。

児童はQRコンテンツの栃木県の地図を見ながら、作業に夢中になって取り組みます。設問の答えを共有しながら、図3・4下の黄枠にあるような「なぜ?」の質問を投げかけるとよいでしょう。「川沿いに田や畑が多い」や「交通の便のよいところに工場が多い」といった大人にとっては当たり前の理由に、子どもたちは気付けないことも多くあります。「地理的環境を生かした土地利用」という概念的知識を獲得するチャンスとなります。



5 単元のまとめとして

調べて、話し合って分かったことを白地図にまとめていきます(図5)。まとめの表現物で大切にしたいのは【自由度】と【学習課題の答えになっていること】です。自由度が高い方が表現の幅が広がり、児童の特性が表れやすくなります。一

*白地図は帝国書院のウェブサイトよりダウンロードできます。

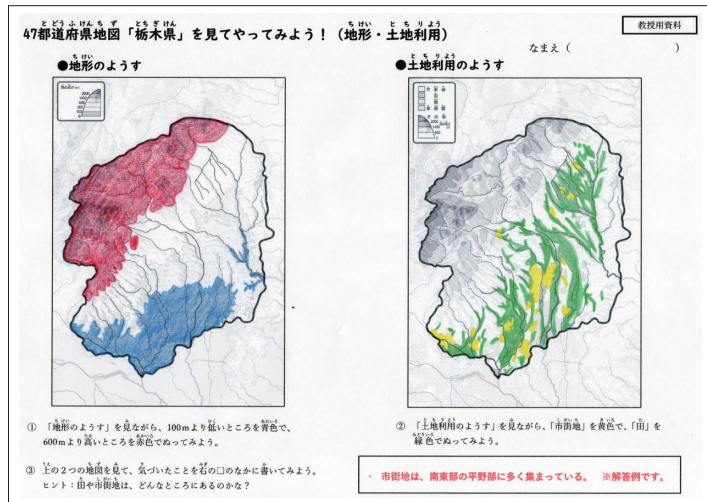


図3 ワークシート1

○⇒作業で分かること ★関連させて分かること

- 県の北部は山が多く、南部は平野が多い
- 土地の低いところに市街地が多い 等
- ★栃木県は南部の平野に人が集まっている

- 問：なぜ平野に人が集まっているのだろうか？
- 答：平野は、家や建物が建てやすいから

方、児童の実態によっては自由にすることで逆に難易度を高くしてしまうこともあります。また児童の関心やこだわりが色濃く出過ぎて、単元のねらいから逸脱したものになってしまうこともあります。児童一人一人のよさが表出され、難易度もちょうどよく、かつ学習課題の解決につながるようなまとめの環境を設けることが重要です。児童の実態を見ながら工夫をしていくとよいでしょう。

学習してきた観点をまとめる枠や、答えを書く枠を用意してあげれば、児童はまとめながらおのずと学習課題のねらいを達成していくことになります。今回はさらに「キャッチコピー」で栃木県の特徴を表す枠を用意しました。複数学んだことの中から、自分が「これだ！」と感じる栃木県の特徴が短い言葉の中に集約されます。説明するときもキャッチコピーを題名のように扱って説明がしやすくなるでしょう。また、記述内容のよさはもちろん、まとめ方のよさ、他にはない気付きなどを意図的に取り上げて教室で啓発していくことで、児童の次のまとめに生かされていきます。

完成した地図を使って友達と説明を聞き合いながら、目的と掲げていた「〇〇さんに伝える機会」を作ってあげましょう。オリジナルの地図を作成

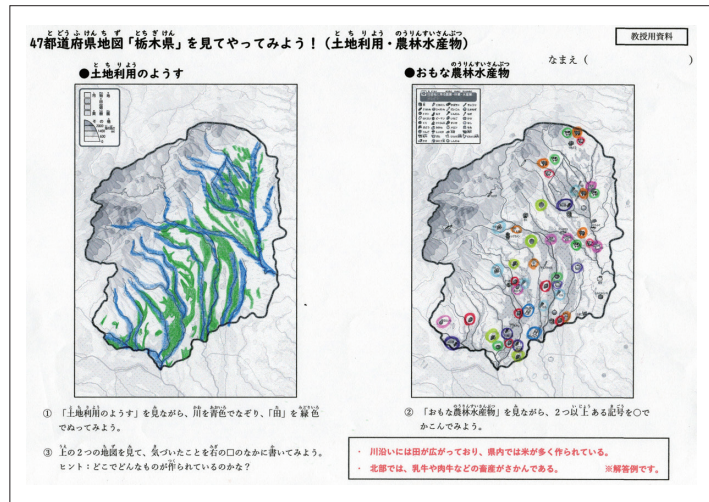


図4 ワークシート2

○⇒作業で分かること ★関連させて分かること

- 川沿いに田が多い 米が作られている
- 北部は畜産が盛んである 等
- ★川沿いに田や農作物が多い

- 問：なぜ農作物が川沿いに多いのだろうか？
- 答：育てるのに水が必要だから。

するプロセスの中で、一人一人の学びにこだわりが出てきています。説明の言葉一つ一つにも児童の学びの姿が表出されることでしょう。

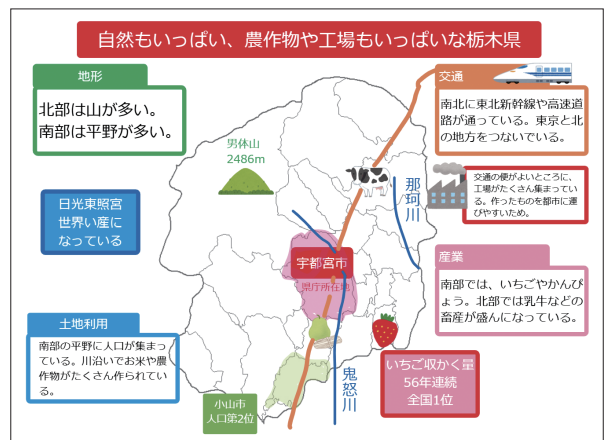


図5 栃木県の白地図 単元終末時

最後に単元全体の振り返りをします。単元導入時に作成した地図と完成した地図を見比べることで、児童はこの単元での自分の成長や学び方のよさ・課題など、学びの深まりを自覚していくことにつながります。この自覚や認識が、児童の次の学びにつながる大きな鍵になります。

どんどん便利になっていく地図帳のよさを教師側が把握し、授業の中で活用する機会を作っていくことが、児童の成長につながる1つの手だてになるのではないのでしょうか。